

農村コミュニティ強化アクションプラン 検討会議の進め方について

■背景

- 府内農村集落の過疎・高齢化集落数が加速的に増加
(平成22年から27年の5年間で倍増)
- 人口減少に伴い次世代の担い手が不足する中、農村コミュニティの維持が困難
- 商店、学校等の統廃合、生活交通の廃止、空家・耕作放棄地の増大、地域の共同作業の衰退など農村地域存続の危機

■問題意識・課題

地方創生の取り組みの中で、過疎・高齢化が進む地域の暮らしを支えるため、地域住民の活動・交流拠点の強化や、生活サービス機能の集約・確保、交通ネットワークの形成等により、利便性の高い地域づくり（いわゆる小さな拠点）が進められている。

京都府においては、そのような小さな拠点の京都モデルとして「コミュニティ・コンビニ」整備事業として、公的サービス、金融、郵便、買い物機能などのワンストップサービス化に取り組んでいる。

一方で、過疎化・高齢化が進む農山漁村地域においては、里の仕事人の伴走支援のもと、集落が連携した人づくりや地域課題解決の取組を総合的に支援し、安全な食料や水の供給など府民生活を支える「命の里」として維持・再生を図ってきたところであるが、引き続き農村集落を支えていくためには、

- ・地域のトータルマネジメントが必要
 - ・不足する人材（マンパワー・後継者）の確保
 - ・地域活動を効率的にすすめるための ICT の活用
- という課題が顕在化してきたところである。

■検討していただく論点（案）

- ①農村コミュニティ強化のために求められる組織
- ②農村地域のマンパワー不足を補完する地域外人材を呼び込む仕組みづくり
- ③新技術活用による効率的管理のモデルづくり

■スケジュール

○第1回検討会:平成29年7月26日

進め方・現状認識の共有

- ・ 検討会議の進め方
- ・ 京都府の農村の状況等（参考：農村コミュニティ支援のための府既存施策（命の里、コミュニティコンビニ等）紹介）

話題提供

- ・ 南丹市美山町鶴ヶ岡地域の取組（柿迫委員）
- ・ 道の駅お茶の京都みなみやましろ村～コミュニティ・コンビニ～の取組
（森本委員）

論点 農村コミュニティ強化のために求められる組織

○第2回検討会:平成29年8月中旬

論点 1 農村コミュニティ強化のために求められる組織

論点 2 農村地域のマンパワー不足を補完する地域外人材を呼び込む仕組みづくり

論点 3 新技術活用による効率的管理のモデルづくり

○第3回検討会:平成29年8月下旬

- ・ アクションプラン中間案の検討

○第4回検討会:平成29年11月上旬(日程調整)

- ・ アクションプラン最終案の検討（パブリックコメント結果報告含む）
- ・ 具体的な施策の検討（予算要求方向の確認）